

01 Concept

■コンセプト

「私が、自由に、振る舞い、まちを堪能するまち 船場」

■設定理由

これまで交通・流通のインフラとして、長らくまちの発展を支えてきた道路。

今やその役割は世界的に見直されており、道路の主役は「車」から「人」の時代が訪れようとしている。 主役となった人々も、ライフスタイルの変化やテクノロジーの進歩で、個人ができる活動領域が広がり、 所属する企業や団体での「集団」での活動から、「個人」での活動、またその趣向が増加傾向にある。

2030年、船場の通と筋、そして人々も例外ではない。

船場建築線で拡幅されてきた通と筋は、サードプレイスとして高いポテンシャルを持っており、 都心回帰が進むなかで、オフィス以外の用途も増え、異なる幅広い人材が集まりだしている。 通と筋が人々にとってリアルでの個人活動の場となれば、

道路の場としての特性とかけ合わさり、次世代の船場の賑わいを支える場所となるだろう。

一方で、2019年における個人的な路上活動は、その勝手がわからず、ハードルが高い。また規制がなければ、逆にまちの環境が悪化する可能性もある。

本提案は一定のコントロール下にありながらも、個人が、自由に、道で行う活動を促し、 2030年の船場を「まちを堪能する人で賑わうまち」とする、プロセスおよびシステムについて言及する。

道路は誰もが利用可能で必ず使う場所

多様な人が集まる場所は多彩なコミュニケーションが生まれる

見通しがよく、風を感じる場所は、居心地のよいサードプレイスとなる

〈可能性〉

■道路の特性と場としての可能性

02 Process

2019 年から 2030 年へ、船場の「通」と「筋」はまちを堪能する場所へと変化する



Phase 1:通・筋の個性強化 (2019 ~ 2022)

・各「通」および「筋」でテーマカラーが定め、その 色で道路を塗装。

〈狙い

・NYの先進事例のように、人々に「道」に対する期待感を与え、そぞろ歩く人が増加し、道沿いの店舗が増加。

・色でそれぞれの道路の個性を可視化することで、通・ 筋ごとの一体感を創出し、さらなる個性化を促進。



Phase 2 :社会実験と完全歩行者空間化 (2023 ~ 2026)

- ・船場の各道路で歩行者空間化や路上活用の社会実験を実施。
- ・船場建築線による歩行者空間を活用して、短期占有システムの試運転を実施。

※目し、>

・効果調査の他、路上の変化および路上は活用する場所 だというイメージをまちの人々に植え付けていく。

Phase 4:短期道路占有システムの本格導入

(2027 ~ 2030)
・路上占有システムを導入し、個人での路上活動が認められ、まちで自由に振る舞うことが可能に。

XΗ (/ /

- ・使用方法を明示することで、路上は使える場所だということを周知する。
- ・路上は個人活動またはその発信場所となり、それらを きっかけとした交流・創造・憩いなど賑わいが発生。

O3 System 「SEMBA One by One」

短期路上占有システム「SEMBA One by One」が船場の道を人々の活動の場に変える

■システム概要

- ・路面を1m×1mのマス目で構成、マスごとに短期占有を可能とし、利用者は思い思いに活動する。
- ・占有手続きは事前にインストールしたアプリケーション上で、利用目的と場所の指定を行う。
- ・維持管理は船場倶楽部が行うほか、テーブルやチェア、パーソナル屋台などの貸出事業も行う。



■システムスキーム

- ・道路管理者または土地所有者から船場倶楽部が占有・借地の上、システムの管理運営を実施。
- ・システム利用者から1時間毎の1マスずつの占有料を収受し、土地の占有料・借地料を支払うほか、
- 維持管理のための人件費、整備費等に充当。 ・商用目的の場合、利用料を高目に設定。

利用者 利用料 維持・修繕費 上地所有者 道路管理者 描地料

■具体的な管理方法

①船場倶楽部による維持管理

・巡回警備のほか、リアルタイムに更新される利用情報と、監視カメラの映像から見る現況情報で AI が管理し、占有の可否をコントロールすることで通行障害や悪質な利用を防ぐ。

②SEMBA Player 制度の導入

- ・商用目的の利用者に対して、船場倶楽部による審査を必要とする認定制度を導入。
- ・審査はアートや物品販売など商用目的ごとに設定され、認定者は「SEMBA Player」となる。

③ビルテナントとの共存対策

- ・店舗前面のマスに対して、占有目的に関する一部権限を与え、販促誘致や競合回避など共存を図る。 ④通・筋のさらなる個性強化
- ・通や筋の占有料設定を利用目的ごとに変えることで、特定の活動を誘致し、個性を強化。

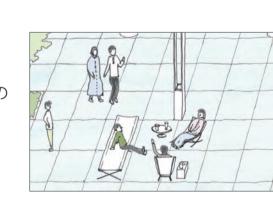
04 Results

SEMBA One by One によって船場のまちを堪能する人々の賑わいで溢れていく

■SEMBA One by One で創出されるまちの状況

【コミュニケーションスペース】

・路上というオープンスペースで、各々が自由に活動を行うため、 船場のいたるところで利用者同士の交流や、通りがかりの人との 交流が期待される。



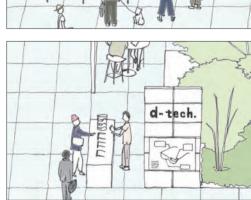
【スタートアップスペース】

- ・低価格で短期間の利用が可能なため、ポップアップストアや技術 紹介など、市場テストを行うスペースとして活用が期待される。
- ・スタートアップスペースとしての活用により、船場は常に新しい もの、新しい発見がある、期待感溢れるまちとなる。



【イノベーションプラットホーム】

- ・異種間交流や通りがかりでの発見など、船場内に多くの刺激があり、イノベーションの発生やそれに伴う起業化などが期待される。
- ・起業風土が定着すれば、ベンチャーキャピタルによる視察、出資 が発生し、船場全体がインキュベーション施設となり大阪の未来 の経済を支える。



■SEMBA One by One で得られるまちへの効果

船場エリアの不動産価値向上

賑わい増加、人がいることによる犯罪低下、イノベーションが 起こりやすい風土が評価され、船場の不動産価値は向上していく。

船場へのシビックプライドの醸成

次は船場で何をしようか、どうすれば船場を面白くできるのか、 船場のプレイスメイカーになった人々が船場らしさを考える。

船場ファンの増加

来るたび新しい発見、出会いがある。振る舞う立場を変えれば 新しい自分が見つかる。懐の深い船場の虜になる人が増えていく。